

崖線の緑をつなぐ：  
二子玉川の有する自然資産と都心アクセス性の良さの両立



撮影：2016年5月（東京都世田谷区・二子玉川ライズ）

◆「二子玉川ライズ」と呼ばれるまち

このまちは、昭和57年（1982）から33年かけて市街地再開発事業により生まれました。計画のコンセプトは宇沢弘文の「社会的共通資本」がベースとなったそうです。自然と共生しながら地域の生態系を維持することで、未来に向けて地域の共有資産をつくることを目指しています。

◆自然の緑と都市の緑の二重奏

国分寺崖線の緑と多摩川の河川空間をつないで地勢と水脈の自然エネルギーを取り込み、低層棟上部には6000㎡のルーフガーデンを設置し、生物多様性の楽園をつくりあげています。

岡村幸二（JRRN会員）